校異源氏物語・みゆき

かくおほしいたらぬことなくいかてよからむことはとおほしあつかひ給へとこのをとなしのたきこそうたていとおしくみなみのうへの御をしはかりことにかなひてかる　くしかるへき御なゝれかのおとゝなにことにつけてもきはきはしうすこしもかたはなるさまのことをおほしゝのはすなとものしたまふ御心さまをさて思ひくまなくけさやかなる御もてなしなとのあらむにつけてはおこかましうもやなとおほしかへさふそのしはすに大原野の行幸とてよにのこる人なくみさはくを六条院よりも御かた　くひきいてつゝみたまふうの時にいてたまうて朱雀より五条のおほちをにしさまにおれたまふかつらかはのもとまて物見くるまひまなし行幸といへとかならすかうしもあらぬをけふはみこたちかむたちめもみな心ことに御むまくらをとゝのへすいしんむまそひのかたちたけたちさうそくをかさりたまふつゝめつらかにおかし左右大臣内大臣納言よりしもはたましてのこらすつかうまつり給へりあを色のうへのきぬゑひそめのしたかさねを殿上人五位六位まてきたり雪たゝいさゝかつゝうちゝりてみちのそらさへえむなりみこたちかむたちめなともたかにかかつらひたまへるはめつらしきかりの御よそひともをまうけ給このゑのたかゝいともはましてよにめなれぬすり衣をみたれきつゝけしきことなりめつらしうおかしきことにきをひいてつゝその人ともなくかすかなるあしよはきくるまなとわをおしひしかれあはれけなるもありうきはしのもとなとにもこのましうたちさまよふよきくるまおほかりにしのたひのひめきみもたちいてたまへりそこはくいとみつくし給へる人の御かたちありさまをみ給にみかとのあか色の御そたてまつりてうるはしうゝこきなき御かたはらめになすらひきこゆへき人なしわかちゝおとゝを人しれすめをつけたてまつり給へときら　くしう物きよけにさかりにはものしたまへとかきりありかしいと人にすくれたるたゝ人とみえて御こしのうちよりほかにめうつるへくもあらすましてかたちありやおかしやなとわかきこたちのきえかへり心うつす中少将なにくれの殿上人やうの人はなにゝもあらすきえわたれるはさらにたくひなうおはしますなりけり源氏のおとゝの御かほさまはこと物ともみえ給はぬをおもひなしのいますこしいつかしうかたしけなくめてたきなりさはかゝる

たくひはおはしかたかりけりあてなる人はみな物きよけにけはひことなへい物とのみおとゝ中将なとの御にほひにめなれ給へるをいてきえとものかたはなるにやあらむおなしめはなともみえすくちおしうそをされたるや兵部卿宮もおはす右大将のさはかりをもりかによしめくもけふのよそひいとなまめきてやなくひなとおひてつかうまつり給へりいろくろくひけかちにみえていと心月なしいかてかは女のつくろひたてたるかほの色あひにはにたらむいとわりなきことをわかき御心地にはみをとしたまうてけりおとゝの君のおほしよりての給ことをいかゝはあらむ宮つかへは心にもあらてみくるしきありさまにやとおもひつゝみ給うをなれ　く　しきすちなとをはもてはなれておほかたにつかうまつり御らむせられんはおかしうもありなむかしとそ思よりたまうけるかうてのにおはしましつきて御こしとゝめかむたちめのひらはりに物まいり御さうそくともなをしかりのよそひなとにあらため給ほとに六条院より御みき御くた物なとたてまつらせ給へりけふつかうまつり給へくかねて御けしきありけれと御物いみのよしをそうせさせ給へりけるなりけりくら人の左衛門のせうを御つかひにてきしひとえたたてまつらせたまふおほせことにはなにとかやさやうのおりのことまねふにわつらはしくなむ

　雪深きをしほの山にたつきしのふるき跡をもけふは尋よ太政大臣のかゝる野の行幸につかうまつり給へるためしなとやありけむおとゝ御つかひをかしこまりもてなさせ給

　小塩山みゆきつもれる松原にけふはかりなるあとやなからむとそのころをひきゝしことのそは　く　思いてらるゝはひかことにやあらむ又の日おとゝにしのたいにきのふうへはみたてまつりたまひきやかのことはおほしなひきぬらんやときこえ給へりしろきしきしにいとうちとけたるふみこまかにけしきはみてもあらぬかおかしきをみたまうてあいなのことやとわらひたまふ物からよくもおしはからせ給物かなとおほす御返にきのふは

　うちきえしあさくもりせしみ雪にはさやかに空の光やはみしおほつかなき御こととともになむとあるをうへもみたまふさゝのことをそゝのかしかと中宮かくておはすこゝなからのおほえにはひなかるへしかのおとゝにしられても女御かくて又さふらひ給へはなと思みたるめりしすちなりわか人のさもなれつかうまつらむにはゝかるおもひなからむはうへをほのみたてまつりてえかけはなれて思ふはあらしとの給へはあなうたてめてたしとみたてまつるとも心もて宮つかひ思たらむこそいとさしすきたる心ならめとてわらひたまふいてそこにしも

そめてきこえたまはむなとのたまふて又御返

あかねさす光は空にくもらぬをなとてみ雪にめをきらしけむなをおほしたてなとたえすすゝめ給とてもかうてもまつ御もきのことをこそはとおほしてその御まうけの御てうとのこまかなるきよらともくはへさせたまひなにくれのきしきを御心にはいともおもほさぬことをたにをのつからよたけくいかめしくなるをましてうちのおとゝにもやかてこのついてにやしらせたてまつりてましとおほしよれはいとめてたくなむとしかへりて二月にとおほすをむなはきこえたかくなかくしたまふへきほとならぬも人の御むすめとてこもりおはするほとはかならすしもうちかみの御つとめなとあらはならぬほとなれはこそとし月はまきれすくし給へこのもしおほしよることもあらむにはかすかのかみの御心たかひぬへきもつゐにはかくれてやむましき物からあちきなくわさとかましきのちの名まてうたゝあるへしなを　くしき人のきはこそいまやうとてはうちあらたむることのたはやすきもあれなとおほしめくらすにおやこの御ちきりたゆへきやうなしおなしくは我心ゆるしてをしらせたてまつらむなとおほしさためてこの御こしゆひにはかのおとゝをなむ御せうそこきこえ給ふけれは大宮こそのふゆつかたよりなやみたまふことさらにをこたりたまはねはかゝるにあはせてひなかるへきよしきこえ給へり中将の君もよるひる三条にそさふらひ給て心のひまなくものしたまうておりあしきをいかにせましとおほすよもいとさためなし宮もうせさせ給はゝ御ふくあるへきをしらすかほにてものし給はむつみふかきことおほからむおはする世にこのことあらはしてむとおほしとりて三条の宮に御とふらひかてらわたりたまふいまはましてしのひやかにふるまいたまへとみゆきにおとらすよそほしくいよ　くひかりをのみそへ給ふ御かたちなとのこの世にみえぬ心ちしてめつらしうみたてまつり給にはいとゝ御こゝちのなやましさもとりすてらるゝ心ちしておきい給へり御けうそくにかゝりてよはけなれと物なといとよくきこえ給けしうはおはしまささりけるをなにかしのあそむの心まとはしておとろ　くしうなけきゝこえさすめれはいかやうに物せさせたまふにかとなむおほつかなかりきこえさせつるうちなとにもことなるついてなきかきりはまいらすおほやけにつかふる人ともなくてこもりはへれはよろつうゐ

くしうよたけくなりにてはへりよはひなとこれよりまさる人こしたへぬまてかゝまりありくためしむかしもいまもはへめれとあやしくおれ　くしき本上にそふものうさになむはへるへきなときこえ給としのつもりのなやみとおもふ給へつゝ月ころになりぬるをことしとなりてはたのみすくなきやうにおほえはへ

れはいまひとたひかくみたてまつりきこえさすることもなくてやと心ほそく思
たまへつるをけふこそ又すこしのひぬる心ちしはへれいまはおしみとむへきほ
とにもはへらすさへき人　くにもたちをくれよのするゑにのこりとまれるたくひ
を人のうへにていと心つきなしとみはへりしかはいてたちいそきをなむおもひ
もよをされはへるにこの中将のいとあはれにあやしきまておもひあつかひ心を
さはかいたまふみはへるになむさま　くにかけとめられていまゝてなかひきは
へるとたゝなきになきて御こゑのわなゝくもおこかましけれとさることゝもな
れはいとあはれなり御物かたりともむかしいまのとりあつめきこえたまふつい
てにうちのおとゝは日へたてすまいりたまふことしけからむをかゝるついてに
たいめむのあらはいかにうれしからむいかてきこえしらせんと思ふことの侍を
さるへきついてなくてはたいめんもありかたけれはおほつかなくてなむときこ
えたまふおほやけことのしけきにやわたくしの心さしのふかゝらぬにやさしも
とふらひものしはへらすのたまはすへからむことはなにさまのことにかは中将
のうらめしけにおもはれたることもはへるをはしめのことはしらねといまはけ
にきゝにくゝもてなすにつけてたちそめにし名のとりかへさるゝ物にもあらす
おこかましきやうにかへりてはよ人もいひもらすなるをなとものしはへれはた
てたる所むかしよりいとゝけかたき人の本上にて心えすなんみ給ふるとこの中
将の御ことゝおほしてのたまへはうちわらひ給ていふかひなきにゆるしすてた
まふこともやときゝはへりてこゝにさへなむかすめ申やうありしかといときひ
しういさめ給よしをみ侍しのちなにゝさまてことをもませはへりけむと人わる
うくいおもふたまへてなむよろつのことにつけてきよめといふことはへれはい
かゝはさもとりかへしすゝいたまはさらむとは思たまへなからかうくちおしき
にこりのするゑにまちとりふかうすむへき水こそいてきかたかへいよなれなにこ
とにつけてもするゑになれはおちゆくけちめこそやすくはへめれいとほしうきゝ
たまふるなと申たまうてさるはかのしり給へき人をなむおもひまかふることは
へりてふいにたつねとりて侍をそのおりはさるひかわさともあかし侍らすあり
しかはあなかちにことの心をたつねかえさふ事もはへらてたゝさるものゝくさ
のすくなきをかことにてもなにかはとおもふたまへゆるしておさ　くむつひも
みはへらすしてとし月はへりつるをいかてかきこしめしけむうちにおほせらる
ゝやうなむあるないしのかみみやつかへする人なくてはかの所のまつりことし
とけなく女官なともおほやけことをつかうまつるにたつきなくことみたるゝや
うになむありけるをたゝいまうへにさふらふこらうのすけ二人又さるへき人

くさま　くに申さするをはか　くしうえらはせたまはむたつねにたくふへき
人なむなき猶いへたかふ人のおほえかろからていへのいとなみたてたらぬひと
なむいにしへよりなりきにけるしたゝかにかしこきかたのえらひにてはその人
ならてもとし月のらうになりのほるたくひあれとしかたくふへきもなしとなら
はおほかたのおほえをたにえらせたまはんとなむうち　くにおほせられたりし
をにけなきことゝしもなにかはおもひたまはむ宮つかへはさるへきすちにて上
も下も思ひをよひいてたつこそ心たかきことなれおほやけさまにてさる所のこ
とをつかさとりまつりことのおもふきをしたゝめしらむことははか　くしから
すあはつけきやうにおほえたれとなとか又さしもあらむたゝわか身のありさま
からこそよろつのことはへめれと思よわり侍しついてになむよはひのほとなと
ゝひきゝはへれはかのおほむたつねあへいことになむありけるをいかなへいこ
とそとも申あきらめまほしうはへるついてなくてはたいめ侍へきにも侍らすや
かてかゝることなんとあらはし申へきやうを思めくらしてせうそこまうしゝを
御なやみにことつけてものうけにすまひたまへりしけにおりしもひんなうおも
ひとまり侍によろしうものせさせ給けれは猶かうおもひおこせるついてにとな
むおもふ給ふるさやうにつたへものせさせたまへときこえ給ふ宮いかに　く侍
けることにかかしこにはさま　くにかゝるなのりする人をいとふことなくひろ
いあつめらるめるにいかなる心にてかくひきたかへかこちきこえらるらむこの
としころうけたまはりてなりぬるにやときこえたまへはさるやうはへることな
りくはしきさまはかのおとゝもをのつからたつねきゝたまうてむくた　くしき
なを人のなからひにゝたることにはへれはあかさんにつけてもらうかはしう人
いひつたへはへらむを中将のあそんにたにまたわきまへしらせはへらす人にも
もらさせ給ましと御くちかためきこえたまふうちのおほゐとのかく三条の宮に
大きおとゝわたりおはしまいたるよしきゝたまひていかにさひしけにていつか
しき御さまをまちうけきこえ給らむこせんともゝてはやしおましひきつくろふ
人もはか　くしうあらしかし中将は御ともにこそものせられつらめなとおとろ
き給ふて御こともの君たちむつましうさるへきまうち君たちたてまつれ給御く
た物御みきなとさりぬへくまいらせよ身つからもまいるへきをかへりて物さは
かしきやうならむなとのたまふほとに大宮の御ふみあり六条のおとゝのとふら
ひにわたりたまへるを物さひしけに侍れは人めのいとおしうもかたしけなうも
あるをことゝしうかうきこえたるやうにはあらてわたり給なんやたいめむに
きこえまほしけなることもあなりときこえ給へりなにことにかはあらむこのひ

め君の御こと中将のうれへにやとおほしまはすに宮もかう御世のこりなけにて
このことゝせちにのたまいおとゝもにくからぬさまにひとことうちいてうらみ
たまはむにとかく申かへさふことえあらしかしつれなくておもひいれぬをみる
にはやすからすさるへきついてあらは人の御ことになひきかほにてゆるしてむ
とおほす御心をさしあはせてのたまはむことゝおもひよりたまふにいとゝいな
ひ所なからむか又なとかさしもあらむとやすらはるゝいとけしからぬ御あやに
く心なりかしされと宮かくのたまひおとゝもたいめむすへくまちおはするにや
かた　くにかたしけなしまいりてこそは御けしきにしたかはめなとおもほしな
りて御さうそく心ことにひきつくろひてこせんなともこと　くしきさまにはあ
らてわたりたまふ君たちいとあまたひきつれていりたまふさまもの　くしうた
のもしけなりたけたちそゝろかにものしたまふにふとさもあひていとしうとく
におもゝちあゆまひ大臣といはむにたらひたまへりゑひそめの御さしぬきさく
らの下かさねいとなかうはしりひきてゆる　くとことさらひたる御もてなしあ
なきら　くしとみえたまへるに六条とのはさくらのからのきの御なをしいまや
ういろの御そひきかさねてしとけなきおほ君すかたいよ　くたとへん物なしひ
かりこそまさり給へかうしたゝかにひきつくろひ給へる御ありさまになすらへ
てもみえたまはさりけりきみたちつき　くにいと物きよけなる御なからひにて
つとひ給へり藤大納言春宮大夫なといまはきこゆることもゝみななりいてつゝ
ものしたまふをのつからわさともなきにおほえたかくやむことなき殿上人くら
ひとのとう五位のくら人近衛の中少将弁官なと人からはなやかにあるへかしき
十よ人つとひたまへれはいかめしうつき　くのたゝ人もおほくてかはらけあま
たゝひなかれみなゑひになりてをの　くかうさいはひ人にすくれ給へる御あり
さまを物かたりにしけりおとゝもめつらしき御たいめんにむかしのことおほし
いてられてよそ　くにてこそはかなきことにつけていとましき御心もそふへか
めれさしむかひきこえ給てはかたみにいとあはれなることのかす　くおほしい
てつゝれいのへたてなくむかしいまのことゝもとしころの御物かたりに日くれ
ゆく御かはらけなとすゝめまいりたまふさふらはてはあしかりぬへかりけるを
めしなきにはゝかりてうけたまはりすくしてましかは御かうしやそはましと申
たまふにかむたうはこなたさまになむかうしとおもふことおほくはへるなとけ
しきはみたまふにこのことにやとおほせはわつらはしうてかしこまりたるさま
にてものしたまふむかしよりおほやけわたくしのことにつけて心のへたてなく
大小のこときこえうけたまはりはねをならふるやうにておほやけの御うしろみ

をもつかうまつるとなむおもふたまへしをするゑのよとなりてそのかみ思たまへ
しほいなきやうなることうちましりはへれとうちうちのわたくしことにこそは
おほかたの心さしはさらにうつろふことなくなむなにともなくてつもりはへる
としよはひにそへていにしへのことなんこひしかりけるをたいめん給はること
もいとまれにのみはへれはことかきりありてよたけき御ふるまひとは思たまへ
なからしたしきほとにはその御いきをひをもひきしゝめたまひてこそはとふら
ひものしたまはめとなむうらめしきおり　くはへるときこえたまへはいにしへ
はけにおもなれてあやしくたいたいしきまてなれさふらひ心にへたつることな
く御らむせられしをおほやけにつかうまつりしきはゝはねをならへたるかすに
も思ひはへらてうれしき御かへりみをこそはか　くしからぬ身にてかゝるくら
ゐにをよひ侍て大やけにつかうまつりはへることにそへてもおもふたまへしら
ぬにははへらぬをよはひのつもりにはけにをのつからうちゆるふことのみなむ
おほく侍けるなとかしこまりまうしたまふそのついてにほのめかしいて給てけ
りおとゝいとあはれにめつらかなることにも侍かなとまつうちなき給てそのか
みよりいかになりにけむとたつねおもふたまへしさまはなにのついてにか侍け
むうれへにたへすもらしきこしめさせし心ちなむし侍るいまかくすこし人かす
にもなりはへるにつけてはか　くしからぬものともものかた　くにつけてさまよ
ひ侍をかたくなしくみくるしとみ侍につけても又さるさまにてかす　くにつら
ねてはあはれにおもふたまへらるゝおりにそへてもまつなむ思たまへいてらる
ゝとのたまふついてにかのいにしへのあまよの物かたりにいろ　くなりし御む
つことのさためをおほしいてゝなきみわらひみみなうちみたれたまひぬ夜いた
うふけてをの　くあかれたまふかくまいりきあひてはさらにひさしくなりぬる
よのふることおもふたまへいてられこひしきことのしのひかたきにたちいてむ
心ちもしはへらすとておさ　く心よはくおはしまさぬ六条とのもゑいなきにや
うちしほれたまふ宮はたまいてひめ君の御ことをおほしいつるにありしにまさ
る御ありさまいきをひをみたてまつりたまふにあかすかなしくてとゝめかたく
しほしほとなきたまふあまころもはけに心ことなりけりかゝるついてなれと中
将の御ことをはうちいてたまはすなりぬひとふしようういなしとおほしをきてけ
れはくちいれむことも人わるくおほしとゝめかのおとゝはた人の御けしきなき
にさしすくしかたくてさすかにむすほゝれたる心ちしたまうけりこよひも御と
もにさふらふへきをうちつけにさはかしくもやとてなむけふのかしこまりはこ
とさらになむまいるへくはへるとまうしたまへはさらはこの御なやみもよろし

うみえたまふをかならすきこえし日たかへさせ給はすわたり給へきよしきこえちきりたまふ御けしきともようてをの　くいてたまふひゝきいといかめしきみたちの御ともの人　くなにことありつるならむめつらしき御たいめにいと御けしきよけなりつるは又いかなる御ゆつりあるへきにかなとひか心をえつゝかゝるすちとはおもひよらさりけりおとゝうちつけにいといふかしう心もとなうおほえたまへとふとしかうけとりおやからむもひなからむたつねえたまへらむはしめをおもふにさためて心きようみはなち給はしやむことなきかた　くをはゝかりてうけはりてそのきはにはもてなさすさすかにわつらはしう物のきこえを思てかくあかしたまふなめりとおほすはくちおしけれとそれをきすとすへきことかはことさらにもかの御あたりにふれははせむになとかおほえのおとらむ宮つかへさまにおもむきたまへらは女御なとのおほさむこともあちきなしとおほせとゝもかくもおもひよりの給はむをきてをたかふへきことかはとよろつにおほしけりかくのたまふは二月ついたちころなりけり十六日ひかむのはしめにていとよき日なりけりちかう又よきひなしとかうかへ申けるうちに宮よろしうおはしませはいそきたちたまうてれいのわたりたまうてもおとゝに申あらはしゝさまなといとこまかにあへきことゝもをしへきこえたまへはあはれなる御心はおやときこえなからもありかたからむをとおほす物からいとなむうれしかりけるかくてのちは中将の君にもしのひてかゝることの心のたまひしらせけりあやしのことゝもやむへなりけりとおもひあはすることゝもあるにかのつれなき人の御ありさまよりも猶もあらす思ひいてられておもひよらさりけることよとしれ　くしき心ちすされとあるましうねちけたるへきほとなりけりとおもひかへすことこそはありかたきまめ　くしさなめれかくてその日になりて三条の宮よりしのひやかに御つかひあり御くしのはこなとにはかなれとことゝもいときよらにしたまうて御ふみにはきこえむにもいま　くしきありさまをけふはしのひこめ侍れとさるかたにてもなかきためしはかりをおほしゆるすへうやとてなむあはれにうけたまはりあきらめたるすちをかけきこえむもいかゝ御けしきにしたかひてなむ

　ふた方にいひもてゆけは玉くしけわか身はなれぬかけこなりけりといとふるめかしうわなゝきたまへるをとのもこなたにおはしましてことゝも御らむしさたむる程なれはみたまうてこたいなる御ふみかきなれといたしやこの御てよむかしは上すにものしたまけるをとしにそへてあやしくおいゆく物にこそありけれいとからく御てふるひにけりなとうちかへしみたまうてよくもたまくしけ

にまつはれたるかな三十一字のなかにこともしはすくなくそへたることのかたきなりとしのひてわらひたまふ中宮よりしろき御もからきぬ御さうそく御くしあけのくなといとになくてれいのつほともにからのたき物心ことにかほりふかくてたてまつり給へり御かたかたみな心　くに御さうそく人　くのれうにくしあふきまてとり　くにしいて給へるありさまおとりまさらすさま　くにつけてかはかりの御心はせともにいとみつくしたまへれはおかしうみゆるをひむかしの院の人　くもかゝる御いそきはきゝたまうけれともとふらひきこえ給へきかすならねはたゝきゝすくしたるにひたちの宮の御方あやしうものうるはしうさるへきことのおりすくさぬこたいの御心にていかてかこの御いそきをよそのことゝはきゝすくさむとおほしてかたのことなむしいてたまうけるあはれなる御心さしなりかしあをにひのほそなかひとかさねおちくりとかやなにとかやむかしの人のめてたうしけるあはせのはかま一くむらさきのしらきりみゆるあられちの御こうちきとよきころもはこにいれてつゝみいとうるはしうてたてまつれたまへり御ふみにはしらせたまふへきかすにも侍らねはつゝましけれとかゝるおりはおもたまへしのひかたくなむこれいとあやしけれと人にもたまはせよとおひらかなりとの御らむしつけていとあさましうれいのとおほすに御かほあかみぬあやしきふる人にこそあれかく物つゝみしたる人はひきいりしつみ入たるこそよけれさすかにはちかましやとて返ことはつかはせはしたなくおもひなむちゝみこのいとかなしうしたまひけるおもひいつれは人におとさむはいと心くるしき人也ときこえたまふ御こうちきのたもとにれいのおなしすちのうたありけり

　我身こそ恨られけれから衣君かたもとになれすとおもへはおほむてはむかしたにありしをいとわりなうしゝかみゑりふかうつようかたうかきたまへりおとゝにくき物のおかしさをはえねんし給はてこのうたよみつらむほとこそましていまはちからなくてところせかりけむといとおしかりたまふいてこの返ことさはかしうともわれせんとの給てあやしう人のおもひよるましき御心はへこそあらてもありぬへけれとにくさにかきたまうて

　唐衣又から衣からころもかへす　くもから衣なるとていとまめやかにかの人のたてゝこのむすちなれはものしてはへるなりとてみせたてまつりたまへはきみいとにほひやかにわらひたまひてあないとおしろうしたるやうにもはへるかなとくるしかり給ようなしこといとおほかりやうちのおとゝはさしもいそかれたまふましき御心なれとめつらかにきゝたまふしのちはいつしかと御心にか

ゝりたれはとくまいり給へりきしきなとあへいかきりに又すきてめつらしきさまにしなさせたまへりけにわさと御こゝろとゝめたまふけることゝみたまふもかたしけなき物からやうかはりておほさるゐのときにていれたてまつりたまふれいの御まうけをはさる物にてうちのおましいとになくしつらはせたまうて御さかなまいらせたまふ御となふられいのかゝる所よりはすこしひかりみせておかしきほとにもてなしきこえたまへりいみしうゆかしう思きこえ給へとこよひはいとゆくりかなへけれはひきむすひたまふほとえしのひたまはぬけしきなりあるしのおとゝこよひはいにしへさまのことはかけはへらねはなにのあやめもわかせたまふましくなむ心しらぬ人めをかさりて猶よのつねのさほうにときこえ給けにさらにきこえさせやるへき方はへらすなむ御かはらけまいるほとにかきりなきかしこまりをはよにためしなきことゝきこえさせなからいまゝてかくしのひこめさせ給けるうらみもいかゝそへはへらさらむときこえたまふ

うらめしや興津玉もをかつくまて磯かくれけるあまの心よとて猶つゝみもあへすしほたれたまふひめ君はいとはつかしき御さまとものさしつとひつゝましさにえきこえたまはねは殿

よるへなみかゝるなきさにうちよせてあまもたつねぬもくつとそみしいとわりなき御うちつけことになんときこえたまへはいとことはりになんときこえやる方なくていてたまひぬみこたちつき　く人　くのこるなくつとひたまへり御けさう人もあまたましりたまへれはこのおとゝかくいりおはしてほとふるをいかなることにかとうたかひたまへりかのとのゝきむたち中将弁のきみはかりそほのしり給へりける人しれすおもひしことをからうもうれしうもおもひなりたまふ弁はよくそうちいてさりけるとさゝめきてさまことなるおとゝの御このみともなめり中宮の御たくひにしたてたまはむとやおほすらむなとをのをのいふよしをきゝたまへと猶しはしは御心つかひしたまうてよにそしりなきさまにもてなさせたまへなにことも心やすきほとの人こそみたりかはしうともかくもはへへかめれこなたをもそなたをもさま　く人のきこえなやまさむたゝならむよりはあちきなきをなたらかにやう　く人めをもならすなむよきことにははへるへきと申たまへはたゝ御もてなしになんしたかひ侍へきかうまてこらむせられありかたき御はくゝみにかくろへ侍けるもさきの世のちきりをろかならしと申たまふ御をくり物なとさらにもいはすゝへてひきいて物ろくともしな　くにつけてれいあることかきりあれと又ことくはへになくせさせたまへりおほ宮の御なやみにことつけたまうしなこりもあれはこと　くしき御あそひなとはなし

兵部卿の宮いまはことつけやり給へきとゝこほりもなきをとをりたちきこえ給へとうちより御けしきあることかへさひそうし又またおほせことにしたかひてなむことさまのことはともかくも思さたむへきとそきこえさせ給けるちゝおとゝはほのかなりしさまをいかてさやかに又みむなまかたほなることみえたまはゝかうまてこと　くしうもてなしおほさしなと中　く心もとなうこひしう思きこえたまふいまそかの御ゆめもまことにおほしあはせける女御はかりにはさたかなることのさまをきこえ給ふけり世の人きゝにしはしこのことといたさしとせちにこめたまへとくちさかなきものはよの人なりけりしねんにいひもらしつゝやう　くきこえいてくるをかのさかな物のきみきゝて女御のおまへに中将少将さふらひたまふにいてきて殿は御むすめまうけたまふへかなりあなめてたやいかなる人二かたにもてなさるらむきけはかれもをとりはらなりとあふなけにのたまへは女御かたはらいたしとおほしてものものたまはす中将しかゝしつかるへきゆへこそ物したまふらめさてもたかいひしことをかくゆくりなくうちいて給ふそ物いひたゝならぬ女房なとこそみゝとゝむれとのたまへはあなかまみなきゝてはへりないしのかみになるへかなり宮つかへにといそきいてたち侍しことはさやうの御返みもやとてこそなへての女房たちたにつかふまつらぬことまておりたちつかうまつれおまへのつらくおはします也と恨みかくれはみなほほゑみてないしのかみあかはなにかしこそのそまんとおもふをひたうにもおほしかけけるかななとのたまふにはらたちてめてたき御中にかすならぬ人はましるましかりけり中将の君そつらくおはするさかしらにむかへたまひてかろめあさけり給ふせうせうの人はえたてるましきとのゝうちかなあなかしこ　くとしりゑさまにゐさりしそきてみおこせたまふにくけもなけれといとはらあしけにましりひきあけたり中将はかくいふにつけてもけにしあやまちたることゝおもへはまめやかにてものしたまふ少将はかゝるかたにてもたくひなき御ありさまををろかにはよもおほさし御心しつめたまふてこそかたきいはほもあはゆきになしたまふつへきおほむけしきなれはいとようおもひかなひたまふときもありなむとほほゑみていひゐ給へり中将もあまのいはとさしこもりたまひなんやめやすくとてたちぬれはほろ　くとなきてこのきみたちさへみなすけなくしたまふにたゝ御前の御心のあはれにおはしませはさふらふなりとていとかやすくいそしく下らうわらはへなとのつかうまつりたらぬさうやくをもたちはしりやすくまとひありきつゝ心さしをつくしてみやつかへしありきてないしのかみにをれを申なしたまへとせめきこゆれはあさましういかにおもひていふことならむと

おほすに物もいはれ給はすおとゝこのゝそみをきゝたまひていとはなやかにうちわらひたまひて女御の御かたにまいりたまへるつゐてにいつらこのあふみの君こなたにとめせはをといとけさやかにきこえていてきたりいとつかへたる御けわひおほやけ人にてけにいかにあひたらむないしのかみのことはなとかをのれにとくはものせさりしといとまめやかにてのたまへはいとうれしとおもひてさも御けしきたまはらまほしう侍しかとこの女御とのなとをのつからつたへきこえさせ給てむとたのみふくれてなむさふらひつるをなるへき人ものしたまふやうにききたまふれはゆめにとみしたる心ちしはへりてなむむねにてををきたるやうに侍と申たまふしたふりいと物さはやかなりえみ給ぬへきをねむしていとあやしうおほつかなき御くせなりやさもおほしのたまはましかはまつ人のさきにそうしてましおほきおとゝの御むすめやむことなくともこゝにせちに申さむことはきこしめさぬやうあらさらましいまにても申ふみをとりつくりてひゝしうかきいたされよなかうたなとの心はへあらむをこらんせむにはすてさせ給はしうへはそのうちになさけすてすおはしませはなといとようすかしたまふ人のおやけなくかたはなりや山とうたはあし　くもつゝけ侍なむむね　くしき方のことはたとのより申させたまはゝつまこえのやうにて御とくをもかうふりはへらむとててをゝしすりてきこえゐたりみき丁のうしろなとにてきく女房しぬへくおほゆ物わらひにたへぬはすへりいてゝなむなくさめける女御も御おもてあかみてわりなうみくるしとおほしたりとのもゝのむつかしきおりはあふみの君みるこそよろつまきるれとてたゝわらひくさにつくり給へとよ人はゝちかてらはしたなめたまふなとさま　くゝひけり